



先日、私の？回目の誕生日でした。誕生日を迎えるといつも思うのが、これまでの自分の歩みである。

学生時代は大学に行けなかったこと以外は、友人に恵まれ、楽しい学生生活を送っていた。就職はコンピュータ会社で、業界は伸び盛りで勢いもあり、残業もすごかったが、いろいろなことを吸収できた。また、仕事の合間を縫って、宴席、テニス、スキー、旅行と青春を謳歌していた。だから明日できることは、今日やらなかったし、一生懸命なんて言葉も言っばい感じで好きでなかった。

ジーアンドエス社長 萩原 扶未子

大きく人生観が変わったのは、二十五歳の誕生日を迎える直前に内臓の間にできた腫瘍が検査で偶然発見され、即入院、手術になった時。これまで人生はもちろんのこと、生や死なんて考えたこともなく、のほほんとした日々を送っていた私に衝撃的な事件であり、辛い誕生日だった。

その時誓ったのが、もしも元気に退院できたなら、与えられた命を一生懸命生きて、いつ死が訪れても思い残すことのない毎日を送ろうということだった。幸運なことに、腫瘍は良性で手術もうまくいき、手術直後の動けなかったのが嘘のように元気に退院できた。

で多くの人に出会い、育ててもらったお陰である。一昨年は夢のひとつである留学を一月ちょっとオーストラリアのパスで送られた。通常では仕事・家庭があれは不可能であるが、周囲の協力もあり、行くことができた。向こうでも、HPでたまたま知った留学情報センターのマックスリ

って研究することになった。これも、カウンセラー研修の講師で来られていた南山大学の高橋先生との出会いがあったから、模索していた道が見え、受験に結びついた。仕事との両立は大変だけど、大きな夢だったのでがんばって一生懸命やりたい。

今年の誕生日は合格祝いと重なって、記憶に残るものとなった。やりたい。

誕生日を迎えて

入院したのは大きな病院だったので、毎日のように人が亡くなり、先天性や突発性も含め重症の方がほとんどだった。ショックだった。見える、聞こえる、話せる、歩けることが、どんなに大切なことか、普通に生活をしている人には考えられないだろう。自分がいかに恵まれた生活をしてきたのか思い知らされた。

それから、やらない後悔より、失敗してもやることによる学習。できない理由を考えず、どうやらできるかをモットーとし、行動することにした。

それで、会社を設立し経営者となったことで、いいことも辛いことも人一倍経験できた。今の自分があるのは、経営者となったこと

シンクのチッチさんや、まゆさんにずいぶん助けていた。だき、留学を堪能できた。また、今月からはずっと念じていた大学院に行けることになった。先日、名古屋の南山大学経営学部経営学科経営学博士課程前期に合格できた。産業心理学で経営者のジェンダー別ストレスを週一回、名古屋に通

来年の誕生日はどうしているだろうか？ 楽しみである。